

愛媛大学附属学校園・支援事例2

希望・願い	本人	<p>○規則正しい生活ができるようになりたい。</p> <p>○みんなと一緒に楽しく学習がしたい。</p> <p>○特に国語の物語文の読み取り、社会の自主学習、理科のノートまとめを頑張りたい。</p> <p>○わり算ができるようになりたい。</p>
	保護者	<p>○生活習慣を整え、規則正しい生活をしてほしい。(家庭学習、片付け、早寝早起きなど)</p> <p>○自分の思いを大切にしつつ、他者の様子を見たり気持ちを考えたりしながらかかわってほしい。</p> <p>○自分の得意なこと、好きなことを生かしつつ、学習もできる範囲で頑張る努力をしてほしい。</p>
1. 児童生徒の状況		<p>(1)これまでの状況(強み、興味関心、学習状況、集団参加等)</p> <p>○歌やイラストに興味がある。(特に歌は得意でボイストレーニングに通っている。)</p> <p>○言葉で表現することは好きなので、国語科や道徳の学習などでは発表もできている。</p> <p>○算数科の学習は3年生程度。週2回、学習支援員の支援を受け、別メニューで学習に取り組んでいる。他の教科は難しい面もあるが、同じ内容で取り組んでいる。</p> <p>○4年生までは自分本位の発言や態度で友達とのトラブルが多かったが、5年生からコミュニケーションの面で大きく成長し、トラブルはほぼ見られなくなった。</p>
		<p>(2)苦手なこと、困難さ</p> <p>○学習全般苦手であるが、特に算数、漢字に困難さを抱えている。</p> <p>○自分の気持ちを押さえて他者とかわることが若干苦手である。</p>
2. つまづきの背景要因 支援内容の検討		<p>(1)背景にある要因</p> <p>○知的発達がゆっくりで、学力に困難さが見られていると考えられる。</p>
		<p>(2)校内委員会、ケース会議等における議論</p> <p>○校内委員会では、児童に合った個別支援を継続していくことで少しでも自信を持って活動できるようにしていくことが大切であるということであった。</p> <p>○教育相談を学期に1度はもち、保護者の理解や協力を得ながら児童に寄り添った支援を続けてきた。放課後デイサービスなども勧めたことがあるが、あまり必要感を持っていないようで実現しなかった。</p>
		<p>(3)考えられる連携先</p> <p>○放課後等デイサービス</p>
3. 支援の実際 合理的配慮・ 基礎的環境整備		<p>(1)校内での支援方法(人的)</p> <p>○学習支援員による支援(週2回程度)</p>
		<p>(2)補助具、環境整備</p> <p>○当該学年以外の教材の準備</p>
		<p>(3)支援方法の共有状況</p> <p>○学級担任と教科担任と学習支援員で共通理解を図って支援している。</p>
		<p>(4)相談・関係機関の利用</p>
4. 支援の効果 と今後		<p>(1)支援の効果・課題</p> <p>○個別の支援を続けることで、児童本人が挑戦したい学習を選択しながら取り組むことができた。</p> <p>○課題としては学年が上がるたびに周りの目も気になり始め、支援に対する抵抗感も若干あるように感じた。本来なら別室で学ぶ体制が理想である。</p>
		<p>(2)引継ぎ事項</p> <p>○進学先で支援を継続してもらえるように引き継ぐ。</p>